



交流教育便り「コラボレーション」No.3では、中学部の学校間交流について紹介します。今年度、中学部では近隣の中学校と本校での年2回の直接交流、年1回のzoomでの間接交流、年2回の作品交流を予定しています。

今回は、中学部の1学期の学校間交流に関する取り組みについて紹介します。

○代表の実行委員による取り組み

本校の2名の生徒、相手校の6名の生徒を実行委員として、zoomによる話し合い等の事前準備に取り組みました。

① 任命式、zoomによる実行委員会の事前準備

本校の2名の実行委員には、教頭先生から任命状を授与してもらいました。任命状を受け取ることで自分が実行委員に選ばれたという自覚をもって、仕事に取り組むことができました。

zoomでの実行委員会に向けて、当日行う「ボッチャ」の説明を考える際には、ボッチャがどのようなゲームか、どのようなルールかを相手に分かりやすく伝えるためにはどうしたら良いかと悩み、1度考えた文章を何度も読み直して修正する姿や見せたい動画を真剣に選ぶ姿など、実行委員として前向きに取り組む姿が見られました。



② zoomによる実行委員会

実行委員会当日は、事前に準備した内容をしっかりと伝えることができました。相手校の実行委員の生徒から、うんうんっと頷いてもらったり、「分かったよ!」と声を掛けてもらったりするとほっとしたような、うれしいような表情を見せてくれました。

数日前から、「先生、木曜日は実行委員会の日だね。」と確認する生徒もおり、いつもと違う友達との活動への期待や不安があるのだろうかと思っていたので、会終了後の充実した表情に指導に関わった教員としてうれしく感じました。



③ 中学部の友達への実行委員会で話し合った内容の伝達

次の週に、実行委員会で話し合った内容を学部の友達に伝えました。給食後の短い時間でしたが、「落ち着いて、ゆっくり、はっきりと原稿を読む。」と事前に確認したりして、臨みました。

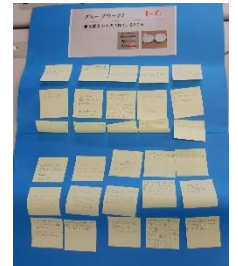


○交流相手校の中学校での事前学習の取り組み

7月の月上旬に交流相手校の1年生を対象とした事前学習を実施しました。1年生は2学期の直接交流から参加してもらえることになっているので、本校の事や本校に在籍する生徒がどのような学校生活を送っているのかを知る機会となればと考えていました。

事前学習内では体験活動として、本校の生徒が給食の際に使っている摂食スプーンや補助食器などの食器具、iPadのコミュニケーションアプリ、VOCA、教科書に実際に触れながら、どのような工夫があるか、どのような場面で使うと便利かなどについて、感じて、考える時間を多く設けました。

実際に触って、使ってみることで興味がわき、「何でこんなふうになっているのだろう?」と同じクラスの友達と話しながら、工夫されている点やそれを使用することでどのような不便さが解消できるかなどについて、とても多くの意見が出ました。



○本校での直接交流

当日の直接交流の様子は、本校の SNS にアップしています。詳しい様子は、そちらの方をご覧ください。今回は、新型コロナ禍後の久しぶりの直接交流だったため、感染への配慮から学年ごとに別々の教室で交流を行いました。交流校の中学校からは、40人の生徒が来校してくれ、とてもにぎやかな楽しい交流学習になりました。

2年生のある生徒は、交流会開始時には緊張していて、表情もあまり明るくありませんでしたが、相手校の友達に声を掛けてもらったり、ハイタッチをしてもらったりする中で段々と打ち解け、最後のダンスではノリノリで体を動かしていました。交流会の次の日の休み時間に「昨日、どうだった?」と尋ねると、「おもしろかったんじゃないかと、くっそ、おもしろかった!」と中学生らしい表現でうれしそうに答えてくれました。この他にもたくさんの素敵なエピソードが、各学年の教員から聞こえてくる直接交流でした。

○交流学習後の事後学習

直接交流の後は事後学習として、交流相手校の友達に向けて暑中見舞いづくりをしました。例年、1学期中に制作し、2学期にお互いの作品を鑑賞するという流れで行っています。この作品交流のコンセプトは、一目見て分かる!楽しい気分になれる!です。学年ごとで、大きな模造紙などに塗り絵したイラストや文字を貼ったり、絵の具で色を塗ったり、先日の交流会の感想を書いたりと思い思いに制作しました。

作っていく中で、この間の友達だったらイラストを丁寧に切ったら、注目して見てくれるのではないかとカッターナイフでイラストを丁寧に切る生徒の姿など、実際に交流したからこそできる相手を意識した工夫をする生徒の姿も見られました。どの学年もすてきな暑中見舞い作品ができました!

